三条市租税教育推進協議会長賞

# 税金について思ったこと

三条市立本成寺中学校　三年　長谷川（はせがわ）　暖（のん）

私は学校の授業で税について話をきいたり夏休み中にネットなどで税金について色々調べてみました。税金は私たちの生活を豊かにし、安心して暮らせる社会を実現するために必要なものだと私は理解しました。しかし税金にはいくつかの問題点があるのではないのかとも思います。

私が今納めているのは消費税になり、百円の買い物で十円、つまり十パーセントを納めています。ですが私が生まれた二千八年の消費税率は五パーセントで今の半分だということを知りました。大きな買い物をしたときにはかなりこの五パーセントが大きく家計にひびいていくのではないかと思うし、働いていない方や、高齢者にとってこの五パーセントや今の消費税十パーセントも大きいと思いました。

税金の負担の公平を向上させるために所得税や消費税の税率を調整しなければいけないと思います。

消費税の他にも所得税や法人税、酒税や住民税、自動車税、固定資産税、関税などがありました。

その中でも私は住民税に疑問が沸きました。なぜ住んでいるだけで税をとられなければいけないのかと思い、調べてみました。住民税はそれぞれ市町村によってちがいますが、教育や福祉、消防や救急、ゴミ処理といった私たちの生活に身近な行政サービスの多くは税金によって提供されています。地方税はこうしたサービスをまかなうためのお金であり、その地域に住む人たちなどが広く負担を分かち合うものと分かりました。住民税には「個人住民税」と「法人住民税」があり、その市町村に住所がある個人が負担するものが「個人住民税」でした。

我が家も関税以外の税金を皆、両親が納めている、払っていると言っていたので、たくさんの税金を国や市に納めているんだなと思いました。

私が今、買い物をして納めている消費税は自分がまだ働いていないので、親が頑張って働いたお金からのおこずかいから納めています。その税金を総理大臣はじめ、国会議員や市の市長、職員のみなさんが大切かつ必要なところに行きわたるように使ってほしいと思いました。

税金はムダではなく大切であるんだと思えるように使ってほしいと私は強く思いました。